



元気いっぱい!!



〒150-0012

東京都渋谷区広尾4丁目1番1号

TEL 03-3400-0147 (代) 03-3400-1311

<http://www.med.jrc.or.jp/nyuji-in/index.html>

理念

私たちは、「人道・博愛」の赤十字精神を行動の原点として、子どもの最善の利益を守り、心身ともに健やかに成長できる保育看護を提供します。

私たちは、家族に寄り添い、地域との連携をはかり、家庭復帰を支援します。



新年あけましておめでとうございます

乳児院院長 今田義夫

当乳児院も早いもので新しくなって5回目のお正月を迎えることとなります。新しく植えた、庭のつつじたちもしっかり根を張り元気に育っています。しかし、残念なことに、子どもたちをやさしく見守ってくれていた桜の大木は、台風で倒れてしまいました。それでも、根っこはユニークな椅子になって子どもたちのかわいい小さなおしりを守っています。

わが乳児院も多くの善意の方々のおかげで、子どもたちもそれぞれに成長しています。特にボランティアの方々なしでは、乳児院の運営は成り立たず、皆様の献身的なご努力には、職員一同心から感謝申し上げます。

さて、昨年3月11日の東日本を襲った大地震とそれに引き続く大津波は、未曾有の大きな被害をもたらし、さらには原発の事故と大きな衝撃を受けました。現代文明のもろさ、怖さを改めて実感しました。また、突然、親や肉親を失い震災孤児になった子どもたちには、逆境に負けず、健やかに成長して欲しいと思います。

近々予想される関東大震災がおきれば、東京では1,200万人以上の被災が推測されるとのこと、万一の場合でも、保護者の方々に安心していただけるよう、訓練や備蓄など防災対策に万全を図りたいと考えています。

新乳児院で始まった、小規模グループケアやショートステイ事業もすっかり軌道にのり、試行錯誤からも一歩踏み出し少しずつ実績を積み上げるまでになりました。

乳児院は助産師、看護師、保育士、心理士、栄養士、調理師、小児科医師そして裏方役の事務職など他には無い子育てのスペシャリスト集団です。少子高齢化の時代、将来的には乳児院の持つこの能力を地域に還元すべく努力していかねばと考えています。

最後になりましたが、念頭に当たり、皆さまのご健勝と、子どもたちの健やかな成長を心からご祈念申し上げますと共に、今年も当乳児院にご高配のほどお願いいたします。

桜の根っこはテーブルにもなっています。



みんなでクリスマス



保育士 山岸

12月22日、絵本、DVD、お話を通じて子ども達が待っていたクリスマス会をしました。面会に見えたご家族に子ども達は聖歌隊や赤い帽子など可愛い衣装でクリスマスソングと演奏、アンパンマンダンスを披露。そして音楽ボランティアさんが照明を落とし、キャンドルを灯し歌う優しいクリスマスソングのプレゼントに、子ども達の瞳はろうそくの灯を映してキラキラと輝いていました。素敵な午後のひと時を楽しみました。



担当職員による外出・外泊体験

保護者の面会が無い、または少ないお子さんを対象に担当職員と社会体験を目的に、外出や外泊をする乳児院独自の制度です。

お正月体験を通して



保育士 登坂

今年は担当のRちゃんを私の自宅に外泊させて、家庭でのお正月体験を行いました。普段の集団生活とはまた違う、家庭でのお正月を経験して欲しかったからです。お正月の飾りや初詣、おせちや雑煮、大人がお正月の準備をしている姿など、Rちゃんにとっては初めてのことばかり。職員の家族も一緒に食卓を囲み、温かい雰囲気ですることができました。初詣は近くの神社へ歩いて行きました。小さな神社でしたが参拝されている方が沢山いて、終始緊張していたRちゃん。それでも職員の動きをよく見ていて、真似しながら一生懸命お願いをしていました。去年の初詣はバギーに乗って見ていただけだったのに、成長の早さに驚かされました。

いつもは沢山の友達が周りにいる環境ですが、大人と1対1で、子どもが落ち着いた状態でお正月の経験ができたと思います。今後もこういった社会体験の機会を増やしていきたいと思っています。



アレルギー疾患とは

看護師 谷中

私たちの体には、ウイルスや細菌などの異物が外から入ってくると、これをやっつけて、病気から体を守ろうとする働きがあります。これを免疫反応と言います。ところが同じ免疫反応でも、人によっては、普通なら何でもない物質に対しても、体が過剰に不利な反応を起こす事があります。これがアレルギー反応です。例えば、卵を食べると蕁麻疹が出たり、ダニやハウスダストなどの影響で喘息発作が起こったりする場合があります。

一般的には、生後2～3ヶ月頃から顔や頭、手、足、体などに痒みを伴う湿疹が出ます。そして、1～3歳頃に喘息の症状が現れます。さらに年齢が進むと、くしゃみや鼻づまりなどのアレルギー性鼻炎へと移っていきます。

症状を軽減する為には、軟膏をこまめに付けて、皮膚の保湿をし、髪の毛や爪を短く切って、皮膚を傷付けないよう注意しましょう。下着や衣服は、吸湿性や肌触りの良い物を選びましょう。毎日の掃除や、換気を充分にして部屋を清潔にして置くよう心がけましょう。

症状が重くなるとアナフィラキシーショックという一種のショック状態となり呼吸困難や血圧低下、意識障害を引き起こし、命に関わる事があります。

症状がみられたら早目に受診して適切な治療と指導を受けましょう。アレルギーの病気は焦らずゆったりとした気持ちで治療に専念する事が大切です。



アレルギー食

～厨房で気をつけていること～

栄養士 中村

アレルギーをもつ子供達が、安全でおいしい食事を食べる事が出来るように心がけています。

アレルゲンとなる食品の使用が少ない献立を取り入れ、皆と同じ食事にする事により誤食を防ぐことが出来ます。アレルギー食品を使用した場合は必ず代替を用意し、なるべく見た目が同じによる工夫をしています。市販のお菓子や加工品には、見えない形でアレルゲンとなる食品が使われている場合が多いので、使用する際は必ず何が入っているかをよく調べた上で使用し、わからない場合は使わない事にしています。調理する際、鍋、包丁などの調理器具は別にする方が望ましいですが、同一の器具を使用する場合はアレルゲンが付着していないかを確認し、使用前後は器具などを洗って加熱処理するなどの配慮をしています。誤食を防ぐ為にお盆の個別化、アレルギーチェック表を用いて厨房と保育者で確認、配膳時に食べさせる担当者がもう一度確認してから食べさせています。

フレンドホームとは

施設に登録しているフレンドホームさんのご自宅で、保護者の面会の無い、少ないお子さんと週末などをともに過ごす東京都の制度です。子ども達にとってはかけがえのない貴重な体験となっています

「フレンドホーム」に登録して

堅多

昨年の春に、「そろそろ、何かを始めないと年をとってしまうばかりだ。」と、前から気になっていて、私ども共働きにでもできるかなと思った「フレンドホーム」に登録しました。週末・年末年始・GWの休みの期間に、入所しているお子さんをお預かりするのですが、手続きは思ったより簡単（乳児院からの自宅訪問と、施設見学）で、3週間後には登録、昨年6月から交流開始となりました。

最初のRちゃんは、特別養子縁組が決まって乳児院を巣立ち、今は、二人目のMちゃんと交流しています。

二人とも笑顔がとても可愛い女の子で、まずはダッコ攻撃から始まりました。こちらの言うことは理解できているようですが、話すのは宇宙語で、あっち・こっちと指差して行き先を指示します。そろそろ、こちらが疲れて下ろそうとするものなら「ふんぎゃー」と火がついたように顔をくしゃくしゃにして泣き出し、下に足が着かないよう一生懸命持ち上げ、抱き上げると途端に「ニーッ」と笑いかけてきます。10kgのダンベル代わりで心地よい筋肉痛です。

毎週、毎週、成長していくのを見るのが楽しみで、私どもの癒しの時間になっています。Mちゃんは、時々、物を投げたり、お茶を吐きだしたりと、「試し行動かな」と思われる「悪さ」をすることもありますが、寝ているとタオルをかけてくれるなど、周りを気遣うこともできるようになりました。

Mちゃんと後、どれくらいの期間、接することができるかわかりませんが、私どもも色々な体験をしながら、Mちゃんの成長を見守っていきたいと思っています。

編集後記

新しい年が始まりあっという間に1カ月が過ぎようとしていますね。年末年始はクリスマス会におせち料理に初詣と楽しく過ごすことが出来ました。今年も子ども達のパワーと可愛い笑顔で元気いっぱい過ごしていきたいと思います。（長谷川）

